

音楽芸能スタッフ科 P A/音響コース (PA&レコーディング専攻)
1 年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I （前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I （後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	P r o T o o l s 基礎 I	68	2	2
実習	イクイップメント I	68	2	2
実習	P A 基礎 I	68	2	2
実習	P A 応用 I	68	2	2
演習	レコーディング I 基礎	68	2	4
演習	レコーディング I 応用	68	2	4
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース/サウンドデザイナーコース/照明コース/ステージ総合コース/音楽スタッフ総合コース/アーティストスタッフコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					

授業概要
①企業に就職するために必要な一般教養としての知識とスキルを身に付ける。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。

到達目標
・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け、自身の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみや挨拶の仕方、正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールの書き方など、ビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・就職活動の際に必要な履歴書及びエントリーシートの作成ができるようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力、自己分析 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語、自己紹介文作成)
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(グループコンサルティング) ・電話対応(かけ方、受け方、取り次ぎ方)
【前期】 11～13回目	・ビジネスメール ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・企業研究、自己PR、志望動機作成 ・感情のコントロール
【後期】 21～24回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成 ・面接練習(個人、グループディスカッション)
【後期】 25～27回目	・一般常識、SPI対策 ・名刺交換 ・冠婚葬祭マナー
【後期】 28～30回目	・面接対策 ・履歴書写真撮影、メイク ・食事のマナー
【後期】 31～34回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行きましょう。 また、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識も学んでいきます。自分のキャリアを考える一年にしていましょう。
備考	授業ごとに講師が準備した教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース/サウンドデザイナーコース/照明コース/ステージ総合コース/音楽スタッフ総合コース/アーティストスタッフコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。 ・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義 必修	
	学則別表上表記	舞台知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース/照明コース/ステージ総合コース/音楽スタッフ総合コース/アーティストスタッフコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	屋内外、ライブハウスイベントなどの様々な現場で、音響スタッフ・及びオペレーターとして活躍。なお現場の電気及び電源知識の習得する。また、大型イベント・博覧会舞台監督、進行チーフを担当。イベントの企画制作・進行・タレントブックイング・マネージメント・進行台本作成・企画書作成・プレゼン・音響プラン作成、プロドラマー・ドラム講師・D.T.M楽曲制作・作詞・作曲等様々な経験と知識・技術を活かし各方面で活躍中。				
授業概要					
音楽・芸能・舞踏その他における、電気・舞台の基本知識と応用を身に付ける。華やかな演者の表舞台を裏から支えるスタッフの重要性を学ぶ。					
到達目標					
その時々現場関係者・スタッフとの円滑なコミュニケーションがとれる様、社会人としての常識を含め、日頃から積極的な挨拶・所作を基本に安全第一に、どんな状況でも冷静に行動できる様に、現場に必要な基本知識を身に付け、現場に強いスタッフの育成を目指します。現場経験の積み重ねから成長していく為の大切な知識習得の重要性を理解し、多種多様な現場でも通用するフレキシブルなスタッフの育成を目指します。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	電気・電流の講義① 電気の発生・電気とは
【前期】 5～7回目	電気・電流の講義② 電気の極性について・送電について
【前期】 8～12回目	電気・電流の講義③単相三線・三相三線
【前期】 13～15回目	電気・電流の講義④電気の安全・感電/漏電事故
【前期】 16～17回目	前期の復習・小テスト・前期試験
【後期】 18～20回目	ステージ・舞台についての講義①各所の名称・尺貫法
【後期】 21～22回目	ステージ・舞台についての講義②電源のとり方
【後期】 23～24回目	ステージ・舞台についての講義③電流・電圧・抵抗/電源計算・E/R/V
【後期】 24～31回目	ステージ・舞台についての講義④周波数特性
【後期】 31～34回目	後期の復習・小テスト
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の到達点を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学ぶ事は、前に進む為の行動です。現場は、場数で培われます。経験を重ねて行く為には、しっかりと基礎を学んでいく事が最重要です。頑張りましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース/サウンドデザイナーコース/照明コース/ステージ総合コース/音楽スタッフ総合コース/アーティストスタッフコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴					
授業概要					
情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラル、個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的などの情報リテラシーからWord/Excel/PowerPointなどの基礎的なオフィスソフトの使い方を理解して就職後に必要な最低限の技術を身に付ける。					
到達目標					
・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解する。 ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権、肖像権等について/Wordで案内状の作成
【前期】 4～7回目	知的財産権について/Excelの基本を学ぶ
【前期】 8～10回目	デジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 11～13回目	音のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 14～17回目	画像のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【後期】 18～20回目	動画のデジタル化について/GiamでアニメーションGIFを作成
【後期】 21～24回目	ネットワークについて/GiamでアニメーションGIFを作成
【後期】 25～27回目	TCP/IPについて/Pythonでプログラミングを実習する
【後期】 28～30回目	データの圧縮について/PowerPointを実習する
【後期】 31～34回目	データの暗号化について/PowerPointを実習する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、ビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。これを使いこなすことは、仕事をする上で欠かせない技能になります。さらに、シンギュラリティを迎える20年後において、コンピュータの基礎基本を学ぶことは、それに順応できる力となります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。					
授業概要						
①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。						
到達目標						
・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 4～7回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 8～10回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 11～13回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 21～24回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 25～27回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 28～30回目	ブロックダイアグラムについて①、ブロックダイアグラムについて②
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / 機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎 I		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	ProTools基礎 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。						
授業概要							
①Macの基礎知識および、多くのレコーディングスタジオで導入されているPro Toolsについて学ぶ。 ②Pro Toolsとミキシングコンソールの関係性にふれ、実用性について学ぶ。							
到達目標							
・Macの基礎知識、Pro Toolsの基礎知識及び基本的な操作技術を身につける。 ・ミックス作業の一連の流れを自身でできるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Macの基礎知識、操作方法を学ぶ。 Pro Toolsの概要説明。 Pro Tools新規セッションの作成方法。
【前期】 4～7回目	トラックタイプの説明。 ツールの機能について学ぶ。
【前期】 8～10回目	編集ウィンドウおよびミックスウィンドウでの基本操作。 Pro Tools録音における基本操作。 カウンター、メモリーロケートについて学ぶ。
【前期】 11～13回目	テンポ検出について学ぶ。 Pro Toolsでの編集操作について学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディングにおけるPro Tools内のセッティングについて学ぶ。 内部Busの活用方法について学ぶ。 Pro ToolsのI/O設定、ルーティングについて学ぶ。
【後期】 21～24回目	Pro Toolsのショートカットキーについて基本説明。 ショートカットキーを活用して、操作の速度向上を目指す。
【後期】 25～27回目	ショートカットキーを活用した操作の精度向上を目指す。 テイク選択や、ノイズ除去等の編集について学ぶ。
【後期】 28～30回目	ミキシング実習
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	レコーディングエンジニアにとって必須のアプリケーションであるProToolsに関する知識及び技術を身につけます。 また、今後も変化していくであろうレコーディングシーンに対応出来る柔軟性も育てていきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システムⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。□				
授業概要					
①アナログの音響卓の操作。 ②ミキシングコンソールやスピーカーをはじめ、その他周辺機器の知識/取り扱いを学び、音響システムの仕組みを理解する。					
到達目標					
・音響のシステムを学び、色々な視点から仕組みを理解していきます。実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。 ・実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行うことができるよう学ぶ。 ・様々な機材との組み合わせや、毎回違う現場に対応できるよう機材の特性・しくみを理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク・D.I・スピーカーなどを分解し、構造・性質・特性を学ぶ。
【前期】 4～7回目	ギターアンプ・ドラムセットなどのマイキングをより細かく学び、状況に応じたセッティングを学ぶ。
【前期】 8～10回目	的確なチューニング・レベルの取り方を学ぶ。
【前期】 11～13回目	ワイヤレスマイク・ワイヤレスイヤモニの周波数帯域を理解し状況に合わせたプランを学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 18～20回目	前期おさらい～PA周りの電源・楽器周りの電源について学ぶ。
【後期】 21～24回目	小型スピーカー～大規模スピーカーの構造・設置方法・状況などを理解する。
【後期】 25～27回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング①
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング②
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかりと学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解して2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、フリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。				
授業概要					
○アナログミキサーやデジタルミキサーのセットアップと操作方法。 ○小型スピーカーからラージスピーカーのセットアップとチューニング。 ○リバーブ、コンプレッサーなどのエフェクターの操作。 ○様々な楽器とボーカルの音作り。					
到達目標					
前期では音響ミキサーの初歩的な操作方法を身に付けてもらい、最初は小型スピーカーでの音作り、その後ステージ上のモニタースピーカーとラージスピーカーを使い、バンドでの音作りが出来る様に音響知識と技術を高めていきます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	基本的な機材、ケーブル、マイクの種類と仕組みについて
【前期】 4～7回目	アナログミキサーの操作方法と各エフェクターの仕組みと接続について
【前期】 8～10回目	小型スピーカーとアンプの仕組み、接続、チューニングについて
【前期】 11～13回目	ヘッドフォンを使用して様々な楽器の音作り
【前期】 14～17回目	小型スピーカーを使用して様々な音作り。前期試験。
【後期】 18～20回目	アナログミキサーの復習とデジタルミキサーの違いについて。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーの操作方法とエフェクターの仕組み。
【後期】 25～27回目	ステージ上のモニタースピーカーの仕組みとチューニングについて
【後期】 28～30回目	ラージスピーカーのシステムの把握と様々な楽器を使っでの音作り
【後期】 31～34回目	ラージスピーカーとモニタースピーカーでバンドの音作り。後期試験
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかりと学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解して2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA応用Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、フリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。				
授業概要					
○アナログミキサーやデジタルミキサーのセットアップと操作方法。 ○小型スピーカーからラージスピーカーのセットアップとチューニング。 ○リバーブ、コンプレッサーなどのエフェクターの操作。 ○様々な楽器とボーカルの音作り。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施					
到達目標					
前期では音響ミキサーの初歩的な操作方法を身に付けてもらい、最初は小型スピーカーでの音作り、その後ステージ上のモニタースピーカーとラージスピーカーを使い、バンドでの音作りが出来る様に音響知識と技術を高めていきます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	基本的な機材、ケーブル、マイクの種類と仕組みについて
【前期】 4～7回目	アナログミキサーの操作方法と各エフェクターの仕組みと接続について
【前期】 8～10回目	小型スピーカーとアンプの仕組み、接続、チューニングについて
【前期】 11～13回目	ヘッドフォンを使用して様々な楽器の音作り
【前期】 14～17回目	小型スピーカーを使用して様々な音作り。前期試験。
【後期】 18～20回目	アナログミキサーの復習とデジタルミキサーの違いについて。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーの操作方法とエフェクターの仕組み。
【後期】 25～27回目	ステージ上のモニタースピーカーの仕組みとチューニングについて
【後期】 28～30回目	ラージスピーカーのシステムの把握と様々な楽器を使っでの音作り
【後期】 31～34回目	ラージスピーカーとモニタースピーカーでバンドの音作り。後期試験
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかりと学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解して2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。					
授業概要						
①レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用できるように学習する。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を学ぶ。						
到達目標						
・レコーディングスタジオ内にある機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用出来るようになる。 ・同じ役割であれば初見の機材でも使用出来る応用力を身に付ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スタジオの電源の入れ方から、ケーブルの正しい巻き方(8の字巻き)など基本的な作業を理解する。 レコーディングスタジオ内の主要な機材の役割とレコーディング作業全体の流れを理解する。
【前期】 4～7回目	マイクやコンソール、スピーカーなどスタジオに常設されている機器の役割を理解する。 マイクのマイクスタンドへの取り付け方やケーブルの接続方法、CueBoxなど録音前の準備について理解する。
【前期】 8～10回目	機器間接続の中心となるパッチベイを理解し信号の流れ(ルーティング)を理解する。 レコーディングの内容に合わせた準備から回線チェック、片付けまで一連の作業の流れを理解する。
【前期】 11～13回目	マイク、ラインレベルの信号の取り扱いや、Pro Toolsへの録音時の注意点など。 録音のセッティングにおいて、必要な機材と設置方法を理解する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	外部エフェクトやProToolsの内部エフェクトなど使用・接続方法を理解する。
【後期】 21～24回目	機器や流れの理解度を再確認する。 直接聴く音と機材によって録音された音の違いを知る。
【後期】 25～27回目	楽器やアーティストの構成などにより変わってくる事前準備や楽器に対する接続方法の違いを理解する。 様々な楽器についての理解を深める。
【後期】 28～30回目	アーティストを交えたレコーディング実習。 実習での反省点や改善点を確認する。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識の内、基礎的な部分を実際のスタジオワークを通して学んでいきます。 高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。				
授業概要					
①スタジオ実習基礎Ⅰでの学習と並行し、より実践的な作業を通して応用力を身に着ける。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を学ぶ。					
到達目標					
・実践的な練習をすることで、時間のロスのない円滑なレコーディング作業を進められるようになる。 ・機材トラブルの対処や、行き詰った際の解決策を考えられる思考力を身に着ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション
【前期】 4～7回目	実践的なレコーディング実習(バンド、ヴォーカル、アフレコ)
【前期】 8～10回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【前期】 11～13回目	実践的なレコーディング実習(ライブレコーディング)
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	実践的なレコーディング実習(アフレコ・ナレーション・SE録音)
【後期】 21～24回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 25～27回目	実践的なレコーディング実習(バンドレコーディング)
【後期】 28～30回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識を基に、ケーススタディを通して応用力を身に着けます。 高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響コース/サウンドデザイナーコース/照明コース/ステージ総合コース/音楽スタッフ総合コース/アーティストスタッフコース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴						
授業概要						
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。						
到達目標						
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事情形について学びます。						
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事情形について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事情形について理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事情形の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。